

区民公開講座 <主催：東邦大学医学部薬理学講座、共催：大田区・日本薬理学会>

東京オリパラで問題となる感染症 ―知っておかなければいけない基礎知識―

東邦大学医学部微生物感染症学講座

教授 舘田一博

2020年7月24日に東京オリンピック・パラリンピックが始まります。世界中が注目するスポーツの祭典であり、その年には4,000万人以上の方が海外から訪れるのではないかと考えられてます。世界では、日本では見られない感染症の流行が散発しており、この2020年東京オリパラ時にどのような感染症が持ち込まれるのか、関係学会が中心となりその対応に関して議論しているところです。2014年、西アフリカでエボラウイルス感染症が流行し、マスコミを通して大々的に報道されたことは記憶に新しいところかと思えます。今でこそあまり報道されなくなっていますが、今でもアフリカのある地域ではエボラウイルス感染症の流行が続いています。その当時、デング熱が代々木公園で広がり、200人ほどの感染者が出たことも大きく報道されました。今までの常識では考えられない熱帯感染症が日本で発症した事例です。地球の温暖化とともに、感染症の流行地域も変化しており、ワールドカップやオリンピック・パラリンピックなど、多数の人が一度に移動するマスギャザリングと呼ばれるような状態においては感染症の爆発的な広がりが発生するリスクが高まることが知られています。本市民公開講座では、東京オリパラを開催するホスト国の国民として知っておいてほしい情報についてお話しさせていただきます。